

梅雨もそろそろ明けて猛暑の夏がやってきました。
皆さん、お元気ですか？夏バテしていませんか？

さて、しばらくさぼっておりましたが、今回は11号の続きで首の痛みについてお話しします。



腰には腰椎椎間板ヘルニアや狭窄症、変形性腰椎症、側弯症、すべり症など様々な疾患がありました。それらは腰や下肢の痛みやしびれの原因になります。

首にも同様、様々な疾患があります。頸椎椎間板ヘルニア、狭窄症、後縦靭帯骨化症、すべり症、変形性頸椎症など・・・。これらがあると、首や上肢、肩が痛くなります。

首や肩の痛みがあり、整形外科を受診しても、レントゲンやMRIには異常がなく、問題ありませんと言われることがあります。どうしてでしょうか？精神的なもの？マッサージやリハビリを勧められますが、なかなかよくなりません。

腰もそうでしたね。腰が痛いにも関わらず、レントゲンでもMRIでも異常が認められない。

さて、思い出してください。「椎間関節痛」というものがありましたね。

首にも椎間関節があります。腰には5個、胸には12個、首には7個の骨が重なり合っています。椎間関節とは、骨と骨が重なり合う場所でした。

長年生きてくると骨は変形し、椎間関節も変形します。椎間関節の中には、髪の毛のような細い神経がありましたね。変形した関節の中で、その細い神経が傷むと、首が痛い症状が起こり、それに関連して、首回り、肩の周囲に痛みが生じます。

肩こりの痛みだと思っていたら実は椎間関節の痛みだったと言うことも多々あります。特に、むち打ちなどを起こし、それ以後首が痛いという時は、椎間関節が傷んでいることがほとんどです。

椎間関節ブロックは、透視下で正確に椎間関節の中に薬を入れます。それで痛みが取れば、痛みの原因は椎間関節と分かり、効果がなければそうではなく他の原因があると言うことになります。

